てくてく情報

2021年1月号　【古河公方公園】
●のんびりてくてく、お散歩してみませんか

●水鳥たちは、冬でも元気ハツラツです

新年を迎え、いよいよ寒さも厳しくなってきました。御所沼も凍る寒さですが、水辺の鳥たちは元気いっぱいです。散策しながら、ぜひ探してみてください。

■群れで陸を移動しながら植物の種等を食べていることもありますよ。

●富士山見えるか富士見塚

■空気の澄んだ冬、富士見塚の頂上から富士山が見えるかと思いきや、残念ながら樹木が成長して大きくなり、見ることはできません。ですが、見晴らしが良くとっても気持ちがいいので、冬にもおすすめのスポットです。

● おなじみの「カモ科」も種類いろいろ

■カモで一番多いのはカルガモです。留鳥のため一年を通してよく見かけ、子連れの姿は良くニュースにもなりますね

　その他にも越冬のためこの季節にやってくるカモの仲間がいます。どの種類もオスの模様が特徴的です。

　頭からスッポリと緑のマスクを被った様な模様のマガモは、その特徴から「アオクビ」とも呼ばれます。

　体が一回り小さく、茶色の頭に目からクビへ緑のラインが入っているのがコガモです。他の種に比べ、警戒心が強いので、少し近づくと逃げてしまいます。

　最後にちょっと変わったカモをご紹介。金色の眼、黒い体、白い羽を持つキンクロハジロは、見た目がそのまま名前になっています。特徴的なのは、他のカモと違って潜水して餌を捕ること。また飛び立つ時には水面を助走しますので、時間があったら観察してみるのも面白いですね。

● 水辺の小さなハンター

■約 25 cmほどの小さな体で潜水し、小魚や貝類、エビなどを捕って食べるカイツブリ。潜水が上手な一方で、足の生え方が潜水に特化しているため、歩きはあまり得意ではなく陸にはほとんど上がらないそうです。地域によっては「もぐっちょ」の愛称で親しまれていて、公園内にも「もぐっちょの入江」と呼ばれる場所があるんですよ。

● 名前はオオバン、覚えてね

■秋以降になると群れでよく見かけ、名前を聞かれることも多いこの鳥は、オオバンといいます。黒い体でくちばしから額まで白く、頭をクイクイッと前後させて泳ぐのが特徴です。

● 迫力ある大型の水鳥たち

■留鳥で一年を通してよく見かけるサギの仲間。白く美しい姿で、一般的にシラサギと呼ばれているものでも種類があり、大きさで大中小が頭に付きます。公園でよく見かけるのはダイサギです。その他に灰色がかった模様のアオサギもいます。どちらも意外と警戒心が薄く、観察しやすいです。また、魚捕り上手なカワウも見ることができます。園内での個体数は多くありませんが、場所によっては数が増えて、農作物被害や糞害などが問題となっている側面もあります。

●1年で最も寒いこの時期、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園)　〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1　電話0280-47-1129
○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。　古河公方公園　検索